

テクノのあり方検討 まちづくりチーム 第5回 記録

■開催概要

- ・ 日 時：2026 年 10 月 6 日（火） 18:00-19:30
- ・ 場 所：光都プラザ コミュニティスペース cotohana（コトハナ）
- ・ 参加者：コーディネーター/有識者（2 人）
地域住民（9 人）
行政職員（9 人）
傍聴者（3 人）
- ・ プログラム内容：
 1. 開会
 2. ワークショップ（意見交換）
 3. 意見の共有
 4. 閉会

■意見交換のテーマについて（コーディネーターより）

- ・ 本日は第 5 回の作業部会として、前回までの議論を踏まえながら、テーマごとに具体的な内容を深掘りしていきたい。
- ・ 本日は 3 つのテーブルに分かれて意見交換を行う。1 つ目のテーブルでは「コミュニティの形成」「多様な世代への配慮」「地域交通」、2 つ目のテーブルでは「学び・教育」「教育環境」、3 つ目のテーブルでは「働く環境」「定住」等を中心に議論する。
- ・ それぞれ関心のあるテーマのテーブルに入っていただきたい。途中でテーブルを移動しても構わないので、複数のテーマについて意見がある方は、途中から別のテーブルに参加していただいてもよい。
- ・ 各テーブルでの議論の後には全体共有の時間を設ける。自分が参加していないテーブルでどのような話があったのかを聞き、質問や意見交換ができる時間も少し長めに取りたい。

■イノベーションチームの状況報告（事務局より）

<報告>

- ・ 第 2 回イノベーションチームでは、医療や教育、高校・研究機関との連携、科学教育等について意見交換を行った。また、住民モニターのような形で地域住民にも協力いただきながら、小さな実証を行い、その結果を地域の取組につなげていくことも考えられるのではないかという意見が出ている。
- ・ SPring-8 をはじめ、テクノには多くの研究施設や研究者がいる一方で、研究者がまちなかに出て地域住民と接する機会が少ないのではないかという意見もあった。研究施設とまちとの接点を増やし、研究者等と地域住民が関われる機会をつくっていくことが重要ではないかという話が出ている。

- ・テクノの 30 周年や「LONA」についても、一時的な取組として終わらせるのではなく、地域の魅力や研究施設等と結び付けながら、継続的な PR につなげていくことが必要との意見が出ている。

<質疑応答>

- ・都市フレームチームについては、現在どのような状況なのか。住民側で議論している内容にも関係すると思うので、どのような検討をしているのか知りたい。(参加者)
- ・都市フレームチームについては、7 月に対面での会議を行った後、各担当者との個別のやり取りや確認を進めている。内容がある程度整理できた段階で、改めて共有する。(事務局)
- ・結論が出てから報告するというだけでなく、まだ決まっていない段階でも、「今こういう意見が出ている」ということをできるだけ共有していただきたい。専門家や関係者がどのようなことを考えているのかを知ること、まちづくりチームでも「それならこちらではこう考えよう」という議論ができる。決まったことだけでなく、検討途中の情報も共有してもらえるとよい。(コーディネーター)

■フロンティア祭に向けた取組について（事務局より）

<説明>

- ・これまでのまちづくりチームでは、テクノの魅力が地域内外に十分伝わっていないことや、地域のおすすめスポット等をもっと発信してはどうかという意見が出ていた。
- ・こうした意見を踏まえ、10 月 24 日のフロンティア祭では、来場者から「自分のおすすめの場所」や「好きな場所」等を集める取組を行いたいと考えている。
- ・会場に大きな地図を設置し、おすすめする場所にシール等を貼ってもらうとともに、「なぜその場所がおすすめなのか」といった理由も書いてもらうことを想定している。
- ・また、地域の写真を持っている方には、QR コード等を利用して写真を投稿してもらうことも考えている。可能であれば、投稿された写真を会場のディスプレイ等で表示することも検討している。
- ・今回の取組を、単におすすめスポットや写真を集めるだけで終わらせるのではなく、今後、地域の魅力発信に関わってみたい人や、一緒に活動してもらえる人を見つける機会にもしたい。
- ・フロンティア祭で集まった情報については、その後整理し、まちづくりチームでも共有して、今後の魅力発信等につなげていきたい。

<質疑応答>

- ・この取組については、企業庁が主体となって準備しているという理解でよいか。(コーディネーター)
- ・実施主体としては、あり方検討協議会の作業部会であるマネジメント会議を想定している。企業庁だけではなく、関係市町や組合、県民局等も含めて実施する予定である。(事務局)
- ・まちづくりチームでも、地域の魅力をどう発信するかについてはこれまで議論してきた。行政側だけで全て準備して、住民は当日参加するだけという形ではなく、情報の集め方や発信方法、集めた情報をその後どう使うかという部分にも、住民が関わるとよいと思う。(コーディネーター)

- ・フロンティア祭で集めた情報を今後どのように活用するかについては、まちづくりチームの皆さんにも意見をいただきながら検討していきたい。(事務局)
- ・ぜひ、地域の人たちと一緒に考えながら進めてもらいたい。(コーディネーター)

■オプトピアにおける「LONA」等のPR展示について(事務局より)

- ・フロンティア祭にあわせて、オプトピアホールで「LONA」やテクノをPRする展示についても検討している。
- ・これまでに2回打合せを行っており、まちづくりチームのメンバーにも参加いただき、様々な意見をいただいている。
- ・一方で、10月24日のフロンティア祭まで時間が限られており、いただいた意見を全て整理して当初の展示に反映することは難しい。そのため、最初の展示については行政側が中心となって準備を進める部分もある。
- ・ただし、オプトピアの展示はフロンティア祭当日だけで終了するものではない。今後も展示を変更していく機会があるため、今回いただいた意見についても、反映できるものはその後の展示の中で反映していきたい。
- ・まずはフロンティア祭に向けて、「LONA」の世界観や雰囲気を生かしながら、テクノそのものの魅力も伝えられる展示にしたい。

■ワークショップ(意見交換)の記録

- ・当日は、関連するテーマを3つずつ組み合わせて3班を設定し、当日参加の住民も交えて意見交換を行った。各班では、AIで整理した方向性のキーワードについて、これまでの議論との齟齬や不足している視点がないかを確認した上で、短期的に取り組むべき内容を中心に、具体的な取組や実施主体、進め方等について意見交換を行った。
- ・最後に、各班で話し合った内容を全体に向けて発表し、他班からの質問や意見も交えながら、全体で意見交換を行った。

【1班】

①検討項目：働く場

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・企業誘致 ・最新技術の活用 ・学生・若者の働く場	—

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・SPring-8-II等を契機とした国内外企業の誘致 ・北川先生 ・ノーベル賞 ・水素研究 ・ビームラインをやるらしい		・国の重点→予算も？ ・川崎重工 ・トヨタ ・神姫バス	・水道+太陽光 ・無人運転バス

※赤字：付箋に記載の意見

②検討項目：働く環境

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・通信環境の充実 ・新しい働き方 ・地域資源の活用	

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・情報通信インフラ・ネットワーク環境の改善 ・5G等を含むオンライン環境の充実 ・姫路ケーブルがネックになっている ・SPring-8は別系統 ・利用者数、整備コスト ・スターリンク（高い）	・電話会社		
・クラウドファンディング等を活用した地域資源の維持・活用 ・目的ありき			

※赤字：付箋に記載の意見

③検討項目：若者等の定住・雇用環境の整備

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・通信環境の充実 ・魅力創出・発信 ・住む・働く環境の充実	—

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・防災拠点、兵庫県の仮設候補としてテクノ ・たつのから問い合わせあり ・住宅受け入れ、車の避難	・市町、事務組合、企業庁		・手続き問い合わせ
・社宅、サンライフテクノ ・海外の方、研修生にオプトヒルズを提供している ・県住は空いている ・公社の方は埋まっている		・企業庁+企業 ・ニーズがあれば企業庁と協議をして建てられる	
・若者が住み、働き続けられる生活・就業環境の形成 ・物質工学は近くに行ったり ・生命化学は周辺になし ・SPring-8 は任期付き ・工場ばかり→県立大との不適合 ・産業の偏り（製造に頼らない）	・けいはんな推進機構 ・まちと企業をつなぐ	・企業	・ビジョンを出し、招く ・森林をセルロース技術で活用するなど ・製造と研究の一体的な強み

※赤字：付箋に記載の意見

<発表>

- ・「若者が地域で働き続けられる生活・就業の基盤」という点について議論した。自分自身、大学で学んできたことを生かせる企業がこの地域にあれば、この先もここに住み続けたいと思う。
- ・実際に企業を調べてみると製造業が中心で、自分が大学で学んでいる生命科学系の知識を生かせるような企業がほとんどないことが課題だと感じている。

- ・SPring-8等の研究施設はあるが、研究職は任期付き等、雇用が不安定な部分もあるため、現状では「ここで働きたい」と思える就職先がなかなかない。
- ・その話を受けて、ダイセルが持っている木を溶かす技術を活用できないかという話をした。木を溶かし、そこから様々な物質を取り出して、樹脂やゴム等をつくることができる技術である。
- ・この技術が実用化され、この地域にプラント等ができれば、県立大学の学生にとっても就職先になるのではないかと。また、木材を資源として活用することは、森林を生かすことにもつながるため、一つのビジョンになるのではないかと。
- ・水素エネルギーについても、新しい研究が進められている。この地域には研究施設や太陽光発電等もあるため、こうした新しい技術と地域資源を組み合わせ、社会実装につなげていけないかという話もした。
- ・また、テクノは地盤が強く、浸水しにくい場所であるため、仮設住宅候補地としても適しているのではないかと。災害時の仮設住宅候補地等として位置付け、整備につなげることも考えられる。
- ・仮設住宅候補地について、車で避難してきた人の駐車場所として、県民局横の広い駐車場や光都プラザの第2駐車場等を活用できるのではないかとという話もあった。
- ・「誰が進めるのか」という話では、けいはんな学研都市には推進機構があり、そこが未来のビジョンや企業誘致等も含めて進めている。テクノでも推進機構のようなものを組織し、そこが中心となって未来のビジョンやアクションプランを考え、実際に動いていくような仕組みが必要ではないかと。

<他チーム等との意見交換>

- ・最初の働き口や企業誘致の話に関連して、データセンターについては話が出なかったのか。
- データセンターについては、以前から何度か提案している。特に考えているのは「コールドデータセンター」で、データを長期間蓄積し、AIの学習等にも利用できるような施設をここにつくれないかと考えている。
- ・この地域は地盤が非常に強いので、長期間データを保存する場所として適しているのではないかと。日本には歴史的な資料が非常に多くあるので、それらをデータ化して蓄積する「デジタル正倉院」のようなものをつくれないかと考えている。
- 世界中のAI関連企業がデータセンターをつくる場所を探している中で、なぜテクノがもっと候補として話題にならないのかと思う。
- 国内でデータセンターの候補地を募集した際に、兵庫県も手を挙げたと聞いたが、そのときには候補として取り上げてもらえなかったように聞いている。
- ・一般的なデータセンターであれば大量の水や電力が必要になると思うが、その点はどうなのか。
- オンラインで常時大量のデータを処理するものではなく、コールドデータセンターであれば、それほど大量の電力を使わないと考えている。
- ・先ほど、SPring-8等の研究施設は任期付きの仕事が多く、就職先として考えにくいという話があったが、研究者についてはそうだと思う。一方、技術スタッフ等には比較的パーマナントなポジションもあり、県立大学から就職する人もいる。そうした就職先をもう少し拡充する方策も考えられるのではないかと。

- ・「デジタル正倉院」という言葉は非常に分かりやすく、イメージが湧きやすい。また、地元で学んだ学生が地元に残れるようなモデルをどうつくるかという話も非常に具体的で、大事な視点だと思う。(コーディネーター)

<当日の意見>

かきとり	意見交換 検討段階	① 資料をどう使う？ ② 何を議論したい？	③ 誰と？ ④ 何を議論したい？ ⑤ 何を議論する？ ⑥ 何を議論する？	⑦ 誰と？ ⑧ 何を議論したい？ ⑨ 何を議論する？ ⑩ 何を議論する？	⑪ 何を議論したい？ ⑫ 何を議論する？ ⑬ 何を議論する？ ⑭ 何を議論する？
くらし	意見交換 検討段階	① 資料をどう使う？ ② 何を議論したい？ ③ 誰と？ ④ 何を議論したい？ ⑤ 何を議論する？ ⑥ 何を議論する？ ⑦ 誰と？ ⑧ 何を議論したい？ ⑨ 何を議論する？ ⑩ 何を議論する？	① 資料をどう使う？ ② 何を議論したい？ ③ 誰と？ ④ 何を議論したい？ ⑤ 何を議論する？ ⑥ 何を議論する？ ⑦ 誰と？ ⑧ 何を議論したい？ ⑨ 何を議論する？ ⑩ 何を議論する？	① 資料をどう使う？ ② 何を議論したい？ ③ 誰と？ ④ 何を議論したい？ ⑤ 何を議論する？ ⑥ 何を議論する？ ⑦ 誰と？ ⑧ 何を議論したい？ ⑨ 何を議論する？ ⑩ 何を議論する？	① 資料をどう使う？ ② 何を議論したい？ ③ 誰と？ ④ 何を議論したい？ ⑤ 何を議論する？ ⑥ 何を議論する？ ⑦ 誰と？ ⑧ 何を議論したい？ ⑨ 何を議論する？ ⑩ 何を議論する？

[illegible][illegible]

【2班】

①検討項目：教育環境の確保

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・多様なつながり ・住民参加→× ・地域活動の充実	<方向性以前の前提条件> ・持続可能なまちであるため ・小中高の確保 <方向性> ・自然の中で子育て ・身近な場所で子どもがいる ・住民参加→地域人材の活用

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・SPring-8 等の科学資源を活かした特色ある授業・学習			・質の高い講師（先生）確保
・不登校等、多様な子どもを受け入れる環境づくり	・地域人材 ・テクノで育った子どもが大人になって帰ってくる ・多様性は他地域からでも OK ・地域のシニア層	・高校生、中学生 ・自治会単位など老若男女全ての人	・自然の中で子育て
・趣味の集まりや講座等、学び・交流の機会づくり			・地元の地域づくり協議会 ・大学生のイベント（テクノフェスタを拾いあげる）→地域の人が店を出すなど

※赤字：付箋に記載の意見

②検討項目：魅力あるまちづくり

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・学生の居場所 ・地域とのつながり ・地域への愛着	・課題：歩いて買い物に行けない ・子どもが少ない分、前に出る機会が高い

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・学生が地域に愛着を持ち、卒業後も「戻ってきたい」と思えるまちづくり	—	—	・先生の対応が手厚い！

※赤字：付箋に記載の意見

③検討項目：学び・交流の創出

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・研究・科学の地域展開 ・多主体の交流 ・学びの共有	・新しいかかわり合いづくり

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・Spring-8 の研究内容を住民等に分かりやすく紹介	・Spring-8 の職員	・大学生とつながる ・Spring-8 を知らない大人	・小中学校へ Spring-8 の紹介 ・大学生への Spring-8 の周知
・生涯学習・文化活動の充実			・スポーツクラブを活用する ・地域住民全員でバトミントン ・スポーツ大会を全員で決めてやる

※赤字：付箋に記載の意見

<発表>

- ・「教育環境の確保」の面で、ここに住み続けるためのベースとして、小学校と中学校を現在の校舎のまま存続させることが重要という話になった。学校がなくなると、新たにここに住みたいという人が住むことができず、その先のことを考えることができなくなってしまう。
- ・以前は多くの人がテクノに住んでいたが、徐々に山の下へ転出し、現在は車で上がってくるとい生活になっている人もいる。
- ・子どもの人数が少なく、多様性が少ないことも転出の一因ではないかという話があった。子どもの人数をすぐに増やすことが難しくても、親世代や高齢者等が教育に関わることで、年齢的な多様性をつくることはできるのではないか。また、テクノから相生等へ転出した人や卒業生にも再びテクノへ来てもらい、今の子どもたちと交流できる機会があるとよい。
- ・活動を考える際にも、親や先生が「これをやろう」と決めるだけではなく、小中学生や高校生自身が「こういうことをやりたい」と発信し、自治会等の様々な年代の人と一緒に実現するような形にしてはどうか。
- ・これまで「住民参加」という言葉が多く使われていたが、「地域人材の活用」というキーワードで整理してはどうかという話をした。
- ・「誰が、誰と、どうやって」という部分では、地域づくり協議会やテクノのまちづくりに関わる組織等についても話が出た。現在の組織のあり方を今後どのように変えるのか、新たな機能を加えるのかについても考える必要がある。
- ・自分自身、高校生になった子どもがいるが、振り返ると、ここで学べてよかったと思うことは多い。ただ、小中学生の保護者にとっては、子どもの人数が少ないことへの不安が大きいと思

う。テクノで育った人から、ここで学んでどうだったのかというポジティブな経験を聞けると、現在の保護者にとっても安心材料になるのではないかな。

- ・テクノは、昔からある地域と比べると住民同士のつながりが浅く、移り住んできた人が多い地域である。昔ながらの地域コミュニティをそのままねるのではなく、テクノらしい新しい、都市的な関わり方をつくっていくことが必要ではないか。特に県立大学の学生と住民との関わりを増やすと、面白いことができると思う。大学生とのつながりは3年ほど前からつくろうとしているが、まだ十分にはできていない。大学で行われているイベントに地域の人や中学生が参加するなど、地域側から大学へ出向いていくことも考えられる。
- ・小中高生に対しては、SPring-8等の研究機関から出前授業が行われている。一方で、地域の大人の方が、研究機関で実際に何をしているのかを知らないのではないかなという話も出た。
- ・研究機関や企業等が「ここではこういうことをしています」ということをもっと地域と共有すれば、地域住民にも研究内容を知ってもらえるのではないかな。

<他チーム等との意見交換>

- ・地域と大学との関わりや、大人も関わって多様な学びの場をつくるという考え方は、テクノならではの学びのあり方として非常に可能性があると思う。現在、小中学校ではSPring-8等の研究者やスタッフによる出前授業は行われているのか。(コーディネーター)
- 行われている。自分の子どもたちも実際に授業を受けている。
- それであれば、もっとPRしてもよいのではないかな。先端的な研究所で研究している人から直接学べることで、テクノの教育の魅力になると思う。(コーディネーター)
- ・10年ほど前、あるいはもっと以前は、そうしたことを今より積極的にアピールしていたと聞いている。学校のホームページ等でも紹介され、出前授業等も比較的頻繁に行われていた。
- ・今も地域の専門家が様々なことを教えているが、そのこと自体があまり知られていない。既にやっていることなので、もう少しアピールするだけでもよいと思う。
- ・研究機関側も、ある時期から地域貢献のような活動に対して少し慎重になった部分があると思う。
- ・研究機関側から地域へ出てきてもらうのを待つだけではなく、住民側からの働きかけも必要なのではないかな。
- ・住民側から研究機関等へ出向いていくことも必要だと思う。
- ・これからの学習指導要領の議論でも「探究」が非常に重要になっている。一方、中学校や高校の先生だけで探究学習を進めるのは難しい部分もある。そのとき、地域にある大学や研究機関がどのようにサポートできるのかということは、これからのテクノの強みになると思う。(コーディネーター)
- ・全国的に探究学習が重視される中で、テクノには大学や研究所が身近にある。そうした施設との距離が近いことは非常に有利であり、教育環境の魅力としてアピールできる。(コーディネーター)
- ・先端的な研究所と地域の子どもの距離が非常に近い地域なので、その点はテクノの「武器」になると思う。(コーディネーター)

<当日の意見>

カテゴリー	主な項目	検討項目	この上でアイデア (おもしろいアイデア)	① 誰が? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学び	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 誰が? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学びの場 学びの場 学びの場						

カテゴリー	主な項目	検討項目	この上でアイデア (おもしろいアイデア)	① 誰が? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学び	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 誰が? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学びの場 学びの場 学びの場						

カテゴリー	主な項目	検討項目	この上でアイデア (おもしろいアイデア)	① 誰が? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? (おもしろい人、プレーヤー) 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学び	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	● 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 学びの場 ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に ・ 地域に ・ 学校に ・ 社会に ・ 家庭に	① 誰が? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	② 誰と? 小学生、中学生、高校生など 具体的な年齢まで記載	③ どうやって? どんなことから? 具体的な方法、道具、材料など
学びの場 学びの場 学びの場						

【3班】

①検討項目：環境整備（多様な人がつながるコミュニティの形成・配慮）

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・多様なつながり ・住民参加 ・地域活動の充実	・小isanつながり ・情報発信

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・色んな背景をもった人がいる→そういうことを知れる場・井戸端会議 ・情報発信、掲示板→個別にやっていること、自治会の情報が見える化 ・行っても行かなくても良い集まる場	・個別の小さい規模のコミュニティの代表者（テクノで文化を拓く会など）	・自治会 ・行政 ・住民 ・子ども	・小さいつながりから自助・共助へ

※赤字：付箋に記載の意見

その他の意見	
コミュニティ	・コミュニティが若い←世代が近い入居者が増えてきて最初のひとと違う（持ち回り役に立つ） ・負のスパイラル。新しい人が入ってくると集まりにくい。コロナの影響もあった ・いろんな背景をもっている人が多い、お互いを知ることが大切 ・自治会の中の繋がりが弱い、コミュニティが弱い ・高校生との交流を好んでいる ・三世代交流がある、貴重
小さな集まり	・私は4期だが数年前までバーベキュー大会あった。新しい人が入ってきて皆で集まるのが難しい。50人超えると難しい ・とんど（林野火災警報があり実施できない）。夏祭り→8年やってきたがボランティアなのでやっていけない ・企業庁と意見が食い違っていると集まっていた（総会年4回とかあった）。コロナが終わったが集まらないままになってしまった（総会1回、役員会）
したいこと	・テクノでくたくマールケット（企業庁）ブースを出したらいい。実行委員にも入れる。大森さん（加古川）が企画している。 ・オプトヒルズ＝自治会ない→集まれる場があるといい。交流センターでお茶している ・子どもたちと接する機会 学校→地域に呼びかけ ・小さい困りごと相談できる場 ・見守り必要 ・交流の場広がるといいな、社協取りくんでいい ・若い世代と交流できる仕組みができるといいな ・色んな方での集まりが日常的にできるといいな ・テクノの多様性を楽しむ→自主的に

	・声かけしていかないといけない ・困っている人助ける ・あいさつから広めていく ・多様性を楽しむ
情報発信	・情報発信が必要（やっていることをしらない） → 掲示板・なんでも貼れるところ。オプトピアにお願いすると貼ってもらう。コープに貼ってもらう。Family Mart ・口コミ
その他	・自治会の仕事、行政の配布物を配るやらされている。 ・つながりが大事と認識はある ・ハードルを下げること大事 ・やることが大事、決まりはない ・ジェネレーション・子供たちとの交流「大事」、このまち出身のふるさと

<発表>

- ・この班では、多様性やコミュニティをどのようにつくっていくかについて意見交換した。テクノには様々なバックグラウンドを持った人が住んでいる一方で、人と人とのつながりが少し薄いのではないかという話になった。
- ・また、リタイアした世代と、子どもや高校生くらいの世代との接点がほとんどない。そのため、世代を越えたつながりをどうつくるかについて、考えていく必要があると思う。
- ・一方で、コミュニティに関する活動が何もないわけではなく、小さなグループで様々な活動が行われている。
- ・大学生の活動をきっかけとして、「光都で文化を拓く」という活動を行っている。また、テクノには様々なバックグラウンドを持った人がいることをお互いに知ろうということで、「光都の多様性を楽しむ」というシリーズの活動も行っている。
- ・一部の住民のグループによる絵本の読み聞かせ等、学校をベースにした活動もある。しかし、お互いに「誰が、どこで、何をしているのか」を十分に知らない。
- ・個々に活動しているだけでは力が分散してしまうため、お互いの活動を知り、緩やかでもよいので大きなつながりを持てるとよいのではないか。
- ・例えば、小さなグループのリーダーが年に1回、2回集まり、情報共有できる場をつくることや、住民がそこを見れば地域で行われている活動が分かるような簡単な掲示板等をつくることが考えられる。
- ・毎月行われている「テクノてくてくマーケット」は、現在はテクノ以外からの出店者や来場者が多い。そこに地域住民ももっと入って、テクノのにぎわいづくりや地域外への情報発信の場所として活用してはどうか。
- ・必ずしもマーケットに出店する必要はなく、開催をきっかけに地域の人が集まり、井戸端会議をするような場になってもよいと思う。

<他チーム等との意見交換>

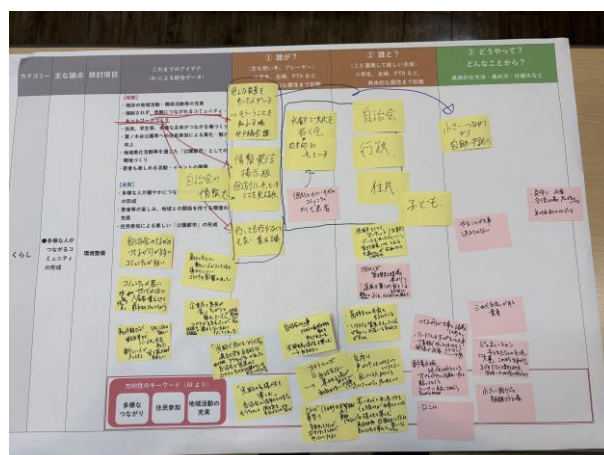
- ・姫路には、休日の朝に家族で喫茶店へ行くようなモーニング文化がある。地域でも、月1回程度、100円でゆで卵やパン等を食べられる「ふれあいサロン」のような場がある。テクノでも、

例えば日曜日の朝に光都プラザ等で 100 円程度のモーニングを提供し、地域の人が集まれる場をつくることも考えられるのではないかな。

→実は、既に朝 9 時から 10 時頃になると年配の方が自然に集まり、お茶を飲んでいる場所がある。10 時半頃になると解散するような緩やかな集まりで、自分自身も時々参加している。そういう活動が既にあるのに、地域の人知らないことが課題だと思う。せっかく良い活動があるのであれば、情報を共有し、他の人も入っていけるようにするとよいと思う。

- ・活動している側から情報発信するだけではなく、情報を受け取ってもらえる場所も必要である。例えば「ここでこんなことをやっています」という情報をファミリーマート等、普段から人が訪れる場所に掲示することも考えられる。
- ・先ほど、小さな活動が地域の中に点在しているという話をしたが、その中に自治会も含めてしまってもよいのではないかな。自治会活動は、住民のお世話や行政から依頼された配布物を配るといった仕事が表に出やすい。しかし、それだけでは「自治会に入りたくない」という人も増えてくると思う。自治会も地域の小規模な活動の一つとして位置付け、自主的な活動を取り入れながら、他の活動との情報交換の輪の中に入れていけばよいのではないかな。そうしたつながりができれば、その次のステップとして、見守り活動や防犯活動等にもつながっていくと思う。
- ・「テクノ全体を包含するような緩やかな大きなつながりをどうつくるか」という点が非常に重要だと感じた。特に「緩やかな大きなつながり」という考え方が重要だと思う。(コーディネーター)
- ・しっかりとした組織をつくることも大切だが、それぞれが何をしているのかを何となく知っていて、行きたいと思ったときに参加できる状態をどうつくるのが大切だと思う。(コーディネーター)
- ・そのためには、情報をどこに置き、どこで、どのような人に届けるのかという具体的な情報発信の方法を考える必要がある。(コーディネーター)
- ・小さなグループが既に様々な活動を行っているということ自体も非常に重要である。どこで、どのような人が、何をしているのかという情報を集約し、このまちづくりチームで一度眺めてみれば、「ここ とここをつなげれば、こういうことができるのではないかな」という新しいアイデアも出てくると思う。(コーディネーター)

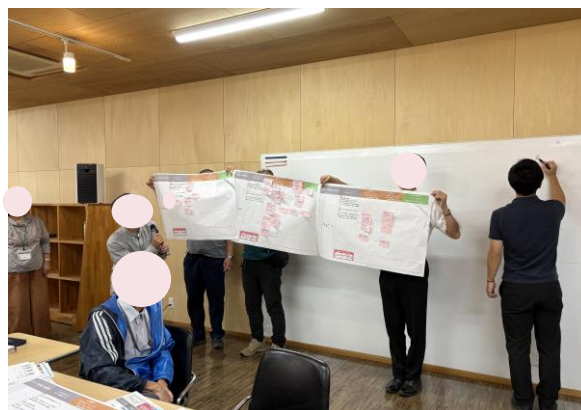
<当日の意見>



■コーディネーターからのコメント

- ・今回で 5 回目となるが、皆さんが話をする雰囲気が非常に良くなっている。ワークショップの回数を重ねること自体に意味があると感じた。
- ・今回は、テクノの現状や足元にあるものを見ながら議論したことで、非常に具体的な話が多く出てきたと思う。
- ・小さな活動に目を向けるという考え方は非常に重要であり、それらをどのように緩やかにつないでいくのかについて、今後も議論を重ねていくとよい。
- ・他地域では、「0 から 1」を生み出すことを意識し、小さなところから一歩ずつ活動を始める取組も行われている。テクノでも、まず小さなアクションを起こしていくことがヒントになるのではないか。
- ・100 円商店街のように、100 円で何かを売ることそのものが目的ではなく、それをきっかけに人と人とのコミュニケーションを生み出すような取組もある。今回出たモーニングのような話にも通じるところがあると思う。
- ・働く環境については難しいテーマだが、けいはんな学研都市では、サントリーや ATR 等、様々な企業や機関が立地している。以前は製造業の立地に制限があったものが近年緩和された例等もあるので、他地域の事例から学べることは多いと思う。
- ・けいはんな学研都市の推進機構をモデルにしてはどうかという提案も非常に興味深い。テクノでどのような組織をつくっていくのか、それが緩やかなつながりになるのか、推進機構のような形になるのかについても、今後議論が必要だと思う。
- ・組織化を考える上では、「私の話」を「私たちの話」へ展開していくことが重要である。今日のワークショップでは、一人が「私はこう思う」と話したことに対し、周りから「私もそう思う」という共感が生まれる場面が多く見られた。
- ・今後は、こうした「私たちの話」を具体的な行動につなげていくことが大切である。回を重ねるごとに、さらに具体的な形が見えてくると思う。

【当日の様子】



以上。